

せいじ せいかな あぢ
正字・正假名で味はふ

もん ぶ しゃう しゃう か
文部省唱歌

かし かいせつ
歌詞・解説は
ふりが なつき
振假名附

正字・正假名で味はふ文部省唱歌

目次

内容見本

文部省唱歌とは……………四
 正字・正仮名 文語体とは……………四

スキーの歌……………一三
 冬景色……………一三
 村の鍛冶屋……………一四
 桃太郎……………一五
 浦島太郎……………一五
 故郷……………一六
 廣瀬中佐……………一七
 水師營の會見……………一八
 螢の光(螢)……………一九
 仰げば尊し……………二十
 庭の千草(菊)……………二十

日本古謡……………二二
 さくら……………二二
 さくら(櫻)……………二二

文部省唱歌

春の小川……………六
 朧月夜……………六
 鯉のぼり……………七
 蝶々……………七
 茶摘……………八
 富士山……………八
 われは海の子……………九
 海……………一〇
 牧場の朝……………一〇
 村祭……………一一
 蟲のこゑ……………一一
 紅葉……………一二
 雪……………一二

翻譯唱歌

埴生の宿……………二一
 故郷の空……………二一
 故郷の廢家……………二二

資料……………二四
 参考文献……………二四
 用言活用表……………二六
 百漢字……………三十
 五十音圖……………三二

祝日唱歌……………二三
 一月一日……………二三
 君が代……………二三

故 郷

♩ = 80

故 郷

三三

ウイ コ サカ コ ギに ロ オい ザ ヒま シ シす ラ カち ハ ノち タ ヤは シ マは テ

コつ イ ブツ ツ ナが ノ ツな ヒ リし ニ シや カ カと カ ノも ヘ カが ラ ハき ン

ユあ ヤ — めめ マ ハに ハ イか ア — マせ ラ モに キ メつ フ — グけ ル — リて サ — テも ト

ソお し スも ズ レハ ハ ガい キ タづ ヨ キる キ フふ フ ルる ル サさ サ トと ト

五、故 郷

一、兎^う追^おひしかの山^{やま}、

小^こ鮒^ふ釣^つりしかの川^{かわ}、

夢^{ゆめ}は今^{いま}もめぐりて、

忘^{わす}れがたき故^{ふる}郷^{さと}。

二、如何^{いか}にいます父^{ちち}母^{はは}、

恙^やなしや友^{とも}がき、

雨^{あめ}に風^{かぜ}につけても、

思^{おも}ひいづる故^{ふる}郷^{さと}。

三、こゝろざしをはたして、

いつの日^ひにか歸^{かへ}らん、

山^{やま}はあをき故^{ふる}郷^{さと}、

水^{みづ}は清^きき故^{ふる}郷^{さと}。

『尋常小學唱歌 第六學年用』大正3(1914)年 より「故郷」
唱歌の教科書の楽譜や算術の教科書などは現代と同じく左横書き。
縦書きの歌詞は漢字平仮名交じり、楽譜は片仮名・平仮名交互。

十六

村の鍛冶屋

作詞 不詳

作曲 不詳

文語

- 一、暫時も止まずに
飛び散る火の花
鞆の風さへ
仕事に精出す
あるじは名高き
早起早寝の
鐵より堅しと
勝りて堅きは
刀はうたねど
馬鍬に作鍬
平和のうち物
日毎に戦ふ
かせぐにおひつく
名物鍛冶屋は
あたりに類なき
槌うつ響に
- 二、
息をもつがず、
村の鍛冶屋。
いつこく老爺、
病知らず。
ほこれる腕に
彼がこゝろ。
大鎌小鎌
鋤よ鉋よ、
休まずうちて、
懶惰の敵と。
貧乏なくて
日々に繁昌。
仕事のほまれ、
まして高し。
- 三、
一刻＝頑固。
彼が＝彼の
懶惰＝なま
けること。
- 四、

「平和」といふ言葉の出でくる歌は戦前・戦時中にもあり、八絃一字や軍事力による平和を歌った「愛國行進曲」「露營の歌」などがあります。しかしこの歌が異色なのは、刀と比較した「平和の打ち物」が題材であることで、しかも学校教育で児童達に教へられました。名高い刀鍛冶ではない、地域の農民達を陰で支へる無名の野鍛冶の様子を歌ったリズムカルな名曲です。

しかし戦時下の昭和十七（一九四二）年に發行された『初等科音楽二』では、歌詞が口語體化され、さすがに戦時下では歌ひづらかったのか、三番以降の歌詞も削除されました。ところが、戦争が終り三番の歌詞のやうな時代が復活しても、三番以降の歌詞は残念ながら學校教科書に復活しなかつたと聞きます。



十九

故郷

作詞 高野辰之

作曲 岡野貞一

文語

もとゐ 元居た家も村も無く、
みち 路に行きあふ人々は
かほ 顔も知らない者ばかり。
こころぼて 五、心細さに蓋とれば、

あけて悔しき玉手箱、
なか 中からはつと白烟、
たちまち太郎はお爺さん。

「乙姫」の歴史的假名遣は「おとひめ」です。「甲乙丙
……」の「乙」も「おつ」です。「をとめ」は「乙女」
と書く事があるので釣られがちですが、實は「乙女」
は宛字です。



一、兎追ひしかの山、
こぶなつ 小鮒釣りしかの川、

ゆめ 夢は今もめぐりて、
わす 忘れがたき故郷。

二、如何にいます父母、
つが 恙なしや友がき、

あめ 雨に風につけても、
おも 思ひいづる故郷。

三、こゝろざしをはたして、
いつの日にか歸らん、

やま 山はあをき故郷。
みづ 水は清き故郷。

この歌は歌詞を歴史的假名遣で、または漢字で書くこ
とで意味が一つに決まります。漢字や歴史的假名遣が
大切であることの説明にも使はれることがあります。

×おいしい
○追ひし

×鹿の山(川)
○し彼の山(川)

「し」は助動詞「き」
の連體形で過去を表
す。

×ゐ(居)ます
○いま(坐)す

(川)いらつしやる

二十

ひろせちゆうさ
廣瀬中佐

さくし
作詞
ふしやう
不詳

さくきよく
作曲
ふしやう
不詳

文語

とろつおと
轟く砲音

あらなあら
荒波洗ふ

やみつらぬ
闇を貫く

すぎの
「杉野は何處、

せんないくま
船内隈なく

よこた
呼べど答へず、

ふね
船は次第に

てきだん
敵弾いよく

いま
今とはボートに

とびく
飛來る彈丸に

りよじんかうぐわい
旅順港外

ぐんしひろせ
軍神廣瀬と

とびく
飛來る彈丸

あうさ
デツキの上に、

ちゆうさ
中佐の叫

すぎの
杉野は居ずや」

たづ
尋ぬる三度、

さかせど見えず

なみま
波間に沈み、

あたりに繁し

うつれる中佐

たちま
忽ち失せて、

うらみふか
恨ぞ深き、

その
其の名残れど。

じつぶんぶん
實は文語文

にカタカナ
にカタカナ

語を含めて
語を含めて

も構はない

×見へず

○見えず

終止形は

「見ゆ」



にちろせんさう
日露戦争の
うち軍事的には失敗したも
のですが、國は隠さず學校
で子供達に教へました。沈
み始めた船から部下の杉野
孫七を何度も探し回つて最
後に戦死した廣瀬武夫中佐
の物語は當時の日本人の心
を打ち、東京の萬世橋驛前
に銅像も建ちました。最近、
銅像の立つてゐた場所を示
すポールが立てられました。



二十五 埴生の宿

作詞 さくし 里見義 さとみ ぎよし

作曲 さくきょく ヘンリー・ローリー・ビショップ

文語

一、埴生の宿も、わが宿
玉のよそひ、うらやまじ。
のどかなりや、春のそら、
花はあるじ、鳥は友。
オーわがやどよ、
たのしとも、たのもしや。
ふみよむ窓も、わがまど、
瑠璃の床も、うらやまじ。
きよらなりや、秋の夜半、
月はあるじ、むしは友。
オーわが窓よ、
たのしとも、たのもしや。

埴生の宿Ⅱ土間に筵

を敷いただけ、また
は土塗りの粗末な小
屋。埴輪の埴で、粘
土質の土。

歴史的假名遣は「は
に／ふ」で區切れる。
發音は「ハニユー」。

装ひⅡ装ひ。

たのし、たのもしⅡ
古語に「裕福」の意
味もあり。

瑠璃Ⅱ寶石の一種。

二十六 故郷の空

作詞 さくし 大和田建樹

曲 きょく

文語

一、夕空はれてあきかぜふき
つきかげ落ちて鈴虫なく。
おもへば遠し故郷のそら。
あゝわが父母いかにおはす。
すみゆく水に秋萩たれ
二、
玉なす露はすゝきにみつ。
おもへば似たり故郷の野邊。
あゝわが兄弟たれと遊ぶ。

月影Ⅱ月の光。

「影」は逆に光を
意味することも。
虫Ⅱ底本通り（昔
からある略字）だ

が正式には「蟲」。
おはすⅡいらつし
やる。

満つⅡ~~四終止~~

満ちる

たれⅡ誰。

原曲は“Comin' Thro' the Rye”で、「誰かさんと誰
かさんが麥畑……」といふもう一つの歌詞の方が元の
内容に近いのですが、大和田建樹は故郷を思ふ別物の
歌詞を載せた高尚な歌に作り替へてしまひました。